

曾於文藝

うたごよみ

俳句

末吉俳句会

朝未き起床促す時鳥

池田 安起徒

金鳳華雨の花園揺れもせず

原口 サエ子

青空へ剪定鋏入れ立夏

本浦 玲子

大陽俳句会

老鷹の強弱つけて鳴いてをり

逆瀬川 節子

玄関の貰ひ芍薬赤と白

岩重 みどり

廃屋の木戸を塞ぎし今年竹

福村 よう子

短歌

末吉短歌会

文机にかすかに届く猫いびき

推量している脳波の形

大森 巳喜生

題字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

もてあそぶコロナ自粛を晴ればれと

いんげんまめの種まく朝

平田 美穂子

七年間育てし会を退きて

常盤木落ち葉掃きよす日暮れ

泊 康

大陽短歌会

禽獣の射程を歩いて抜ける森

汝の気配を背に集め

広川 ミドリ

ハンガーに止まりて揺らす鳥の見ゆ

今日のはじまりこでまりの花

川辺 敦子

高速道の柱を写す水張田を

うなりあげつつ田植機がゆく

伊勢 タミ

財部短歌会

けふもまたメディアに溢るる外来語

時に急かされ戸惑ひの日々

脇丸 洋子

玉ねぎの薄皮とばして息をつぐ

初夏のそよ風野菜天国

永岡 冴子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

即刻言時や 隣の他人の

世話になつ 鈴木 一泉

家が屋たい 県道と広域

丸山茶 古川 一幹

どつならん わが故郷の料理

美味がよ 浜田 一好

我がたや コロナも流行ち

喜くじよつ 桐野 奈世

大陽薩摩狂句会

熱がいの 亭主しや飯し食迄い

汗を掻つ 津留 群志

謝罪と 言訳い玉ん

汗が出つ 小倉 りんりん

人よつか 仕事つしたよな

汗をけつ 西山 美代子

ワクチンに 恐怖つて拭ぐた

脇の汗 境 すやすや